

# キャリア教育の実践

明和町立明和西小学校

## 「人間関係形成・社会形成能力」の育成

### 縦割り班活動(異学年交流)

人間関係形成・社会形成能力は、児童が将来社会に出て生活し、仕事をしていく上で身に付けた基礎となる能力である。たとえ個の能力が高くても仕事はうまく回らない。周囲の人間と協調しながら行動できなければならないし、価値観の異なる他者を認めコミュニケーションをとっていかなければならない。この能力を育成するために本校で3年前から取り組んでいる縦割り班活動が効果的な活動として挙げられる。朝行事年間約30回ほどの中で、高学年がリーダーとなって遊んだり運動会の応援をしたりする時間を設定した。また毎日の清掃活動も縦割り班で取り組んでいる。このような意図的な異学年交流の場を設定することで人間関係作りやコミュニケーション能力の育成を図っている。



高学年に対してはスクールカウンセラーと担任の T・T 授業を組んでコミュニケーションスキルアップを狙ったリーダー研修を行った。自分の伝えたい事を相手の考えも考えながら伝えることをその後の運動会練習や清掃活動で実践している姿も見られた。班は前後期で入れ替えになるが、縦割り班が解散するときには下級生から全員の高学年に対して感謝の手紙を渡す活動を実施している。

手紙をもらった高学年の児童は笑顔でこれを受け取っていた。これによりリーダーとしての苦勞が報われ成就感を味わうことができている。

### 児童会によるあいさつ運動

人間関係形成の第一歩はあいさつ・返事がきちんとできるようになることである。昨年度から引き続き児童会本部が中心となって登校時、校門周辺であいさつ運動を行った。元気に気持ちの良いあいさつができた児童には色紙が渡され、それを廊下に掲示された「あいさつの木」に貼り付けていくことで、たくさんのあいさつがなされたことを視覚化して励みとなっていた。今年度はさらに新たな試みとして、体育館に集会する時にも元気にあいさつしながら入り口で手を合わせる「ハイタッチ運動」を始めている。



## 「自己理解・自己管理能力」の育成

### 自信や自己有用感を持つ

小学校において自己理解・自己管理能力の育成のために、まず様々な体験活動を通して、「やればできる」という自信と自己有用感を持たせることは大切なことである。その一例として5年生の家庭科の実践を示す。「おいしいご飯と味噌汁を作ろう」という課題のもと、



まず事前学習を行った。味噌だけの汁、味噌に様々なだしを合わせた汁を用意してそれらを当てさせることで児童は自分の感覚を使ったり友達と相談したりしておいしいだし選びに取り組んだ。さらに味噌についても4種の味噌を用意して実際にだしと合わせたものを飲み比べながら自分たちが一番おいしいと思うものを選ばせた。こうしてだしや味噌の風味の違いが理解できたので、その後の調理実習に

おいてすべての班が手際よくおいしい味噌汁を作ることができた。また、その後の家庭との連携において、それぞれの家庭で味噌汁を作ったことで家族においしいと褒められたり感謝されたりした体験から「また家で違った具でも作りたい。」という感想が多く出された。

### 自分らしさの発揮、粘り強い取組

集団の中で自分ができること、得意なこと、必要とされることを行ったり、場合によっては自分を抑え、あきらめずに最後まで取り組もうとする力も大切である。この力は全教育活動を通して育てられるが、特に運動会や持久走大会、明和千代田水泳記録会や邑楽郡陸上記録会など体育的行事への取り組みや校内絵画展、書初め大会など文化的行事への取り組みを通して育むことが期待される。これまで自尊感情の低い児童がそれらの行事への取り組み、自己ベストの記録を出したことで以後の生活態度が変化した事例も見られた。ここで大切なことは周りの児童、教師、家庭などの励ましや事後の称賛などがこれからも頑張っていこうとする意欲づけのために有効であるということである。

## 「キャリアプランニング能力」の育成

### キャリア教育掲示板の活用

小学校において直接的にキャリアプランニング能力にかかわる情報を提供する場として今年度、二階通路にキャリア教育掲示板を設置した。中学生の職場体験新聞を掲示したり図書室の職業関連の図書を紹介したりするなど、今の学びと将来がつながっていることを理解することに役立つ掲示を今後も考慮していきたい。



### 「キャリアノート」の活用

今までのリーフレット形式の「夢カード」から、小中9年間を見通した「キャリアノート」を整備した。学年ごとの将来の夢を綴るほか、具体的な目標や取り組みが記録できる

ようにしてキャリア教育の学びを自ら振り返ったり今後に生かしたりできるようにした。